

## 特色ある取組事例

### 【施設名】

埼玉県立近代美術館

### 【施設概要】

埼玉県立近代美術館は、緑豊かな北浦和公園に 1982 年開館し、埼玉の美術を核として、モネ、シャガール、ピカソなどの海外の巨匠から日本の現代作家まで、優れた美術作品を紹介しています。建物は黒川紀章氏の設計で、グリッドの立方体によって構成されており、正面の曲面ガラスと一体となって個性的な空間を醸し出しています。収蔵作品点数は約 2,700 点で、年 5 回の企画展と 4 期の常設展を開催しています。

館内には、ゆったりと作品を鑑賞できるよう世界のグッド・デザイン椅子を様々な空間に配置し、「椅子の美術館」としても親しまれています。「一般展示室」では、県内の美術家や美術団体などによる個展やグループ展などが開催されています。また、北浦和公園の緑の中を散歩すると、グレコ、ボテロ、西野康造など、いろいろな野外彫刻作品に出会うことができます。

(埼玉県立近代美術館ホームページアドレス：<http://www.momas.jp/>)



埼玉県立近代美術館 外観

### 【特色ある取り組み】

#### ～埼玉県立近代美術館のめざすもの～

当館では、ミッション・ステートメントを次のとおり定め、当館の目指す姿・戦略目標を明らかにしています。『埼玉県立近代美術館のめざすもの』 埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。そのため私たちは次のとおり新しい公立美術館を目指します。①美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。②人々が集い、参加し、交流するための基地となります。③未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。④地域や県民とともに進化する美術館をめざします。

#### ～美術館の事業～

企画展では、①埼玉県ゆかりの美術家に関するもの、②日本の近代美術を紹介するもの、③ヨーロッパ、アジア、アメリカなど海外の近代美術を紹介するもの、④国内外を問わず現代美術を紹介するもの、⑤上記以外の時代や分野を近代美術館の視点で捉え直すもの、の 5 項目のバランスをとりながら、年 5 回開催しています。

常設展では、当館所蔵の国内外の優れた美術作品を展示しています。さまざまな角度から多様な作品を鑑賞できるよう、テーマを定めて年 4 回ほどの展示替えを行っています。①アーティスト・プロジェクト、②ミューズ・フォーラム等を交えて企画性の高い展示をめざしています。また、美術館サポーターによる作品ガイドを行っています。

教育普及事業では、③子ども向けプログラム「アートの森」や、④一般の方を対象とした「美術館講座」など、美術の楽しみ方を広げるさまざまなプログラムを用意しています。

⑤豊かな美術教育を支えるため、先生のための研修会や展覧会の解説会を開催し、学校との連携を深めるためのプログラムも展開しています。⑥作品鑑賞を手助けするワークシートも豊富に作成しています。



「アートの森ーみんなで作ろう、人間マンドラ」のひとコマ。(企画展『マンドラ展』の砂絵マンドラに見立てて、人でマンドラの世界をつくるワークショップ)

## ① アーティスト・プロジェクトについて

『アーティスト・プロジェクト』は、年間4期の常設展の各期4テーマのうちの1つとして、所蔵作家の協力を得ながら、作品の投げかけるヴィジョンやその後の新たな展開などを詳しく紹介するプログラムです。作家自身が作品について解説する「アーティスト・トーク」も開催されています。

### 第1回 2003年度常設展第3期「アーティスト・プロジェクト・1ー成長する造型・橋本真之《果実の中の木もれ陽》」(2003年10月29日～2004年1月25日)

美術館前庭の植込みにある「果実の中の木もれ陽」と名付けられた鍛金技法で作られた巨大な作品が、新たに増殖制作されていく成長の過程、記録写真、制作スケッチなどを紹介しました。

### 第2回 2004年度常設展第3期「アーティスト・プロジェクト・2 佐藤時啓ー光のキャラバン」(2004年10月20日～2005年1月30日)

長時間露光の被写体となる風景空間に自ら入り込み、ペンライトや手鏡を使って動いていく光の痕跡を刻み、不思議な時空を浮かび上がらせる佐藤時啓のユニークな作品群と可動式ピンホールカメラを使ったプロジェクトワークを紹介しました。



2004年度：佐藤時啓氏によるアーティスト・トークのひとコマ

### 第3回 2005年度常設展第3期「アーティスト・プロジェクト・3 関根伸夫《位相一大地》が生まれるまで」(2005年11月2日～2006年1月29日)

当館所蔵の版画作品《位相一大地 1》と映像版《位相一大地》を中心に、1960年代の貴重な初期作品の特別出品を交え、伝説的な作品となった《位相一大地》が生まれるまでの思考と制作の軌跡を辿りました。

## ② ミューズ・フォーラムについて

「ミューズ・フォーラム」は、「ミュージアム」の語源が「ミューズ（技芸を司る女神たち、美神たち）の館」に由来することに加えて、ミュージアムの原型“ムセイオン”に見られた、人々が集い芸術の刺激を受けながら創造的な活動の契機を生み出していく「ひろば（フォーラム）」の機能を、21世紀の美術館に求められる機能ととらえ、外部の方々に当館常設展の企画に参画していただき、美術館との共同作業で新たな美術館の楽しみ方を探求し試行し実現していくことによって、「こんな美術館、あったらいいな!」という思いを共有し、一歩ずつでも望ましい姿に近づけていく試みです。

### 第1回 2004年度常設展第2期「ミューズ・フォーラム・1ーこんな美術館、あったらいいな!」(2004年7月22日～10月17日)

障害者の芸術活動を通して、社会に新しい価値観を提案し、美術館をより身近で使い勝手のいいものにしていこうと活動を継続しているグループ、エイブル・アート・ジャパンとミュージアム・アクセス・グループ MAR の協力により、館所蔵作品と全盲の美術家・光島貴之氏の作品をソファを置いた空間に並べて展示したり、視覚障害者向けに会話によることばを録音した音声ガイドや拡大文字による解説冊子を配置しました。

## 第2回 2005年度常設展第2期「ミューズ・フォーラム—ARDAの宝島探偵団—Hunting Museum! サイを追跡せよ」(2005年7月27日～10月30日)

ARDA (NPO芸術資源開発機構)の企画協力により、美術館の空間を宝島に見立てて、マップを手にシンボルキャラクターのサイの足跡を追いながら、館内をめぐっているいろいろな発見を楽しんでいただきました。



2005年度 ARDAの宝島探偵団  
「館内マップ」

### ③ 子ども向けプログラム「アートの森」について

#### (1) 土曜アートの森

土曜アートの森は、毎週土曜日に小学校1年生から中学校3年生までを対象に実施している子ども向けのプログラムです。子どもたちが、アートとふれあい、美術館に親んでもらえるように様々な工夫をしています。

(a) アートの森「子ども美術館講座」…展覧会を楽しく見るヒントをわかりやすく紹介します。レクチャーや実際の展覧会鑑賞、展覧会に関連した簡単な制作などを行います。

(b) アートの森探検隊&探検隊マスターズ「建物、いす、彫刻、ひみつ」…美術館スタッフや学生ボランティアが隊長となって、少人数のグループで子どもたちが美術館を探検するプログラムです。また、マスターズは、探検をさらに深める活動が入ります。

(c) アートの森「工房」…作品の制作を通して作家の取り組みや作品の素晴らしさを理解し、展覧会の鑑賞につなげていく制作プログラムです。

(d) アートの森「親子ツアー」…展覧会を親子で一緒に楽しむプログラムです。鑑賞の楽しみで会話が広がります。

(e) アートの森「アート★ビンゴ」…美術館を楽しむクイズに挑戦し、正解からビンゴゲームを楽しむプログラムです。友だちや親子と参加できます。



アートの森「工房」のひとコマ

#### (2) 夏休みアートの森

(a) アートの森「夏休みお楽しみプログラム」…夏休み特別版の「アートの森」企画です。今年度は2種類のプログラム「みんなでつくろう、人間マンダラ!」「アート de オアシス—水と光のファンタジー」を実施しました。

(b) アートの森「夏休み子ども相談」…美術館サポートスタッフが“子ども相談員”となって、子どもに美術館をガイドする「夏休み子ども相談コーナー」を設置しました。子どもたちの課題解決に応じたり、来館した子どもたちに美術館を楽しんでもらう案内をしています。

#### ④ 一般の方を対象とした「美術館講座」について

##### (1) 「現代美術入門・画廊へ行こう」

第1日目は当館で画廊主から講話を聴講し、第2日目は各コース別に画廊を訪ね、作家や画廊主から直接お話を聞きながら、作品を鑑賞し現代美術に親しんでいただく講座を実施しました。

○平成18年度・・・◆6/3A・Bコース共通:講話「画廊とは」◆6/10Aコース:京橋・銀座周辺の画廊見学  
◆6/17Bコース:京橋・銀座周辺の画廊見学

##### (2) 「近・現代建築探検ツアー」

専門家とともに実際に建築物を訪ね、建築の鑑賞方法や歴史を学び、建築の面白さを知り、周辺の建築や景観についても考えてみるツアー参加型の講座です。

##### ○平成17年度「近・現代建築探検ツアー」

初回到講義を聴いた後、解説を交えながら実際の建築物を見学しました。◆とき:H18年2月18日(土)講義「建築家シリーズ」講師:中谷正人氏(建築ジャーナリスト)、2月25日(土)Aコース:目白が丘教会、徳川黎明会、東京芸術劇場など、3月4日(土)Bコース:西町インターナショナルスクール、駐日シンガポール大使館、在日オーストリア大使館など

##### ○平成18年度第1回「近・現代建築探検ツアー(深谷編)」

埼玉県内の興味深い建築にスポットをあて、NPO 深谷にぎわい工房、NPO 住まいとまち創り集団 木犀の協力を得て、現地を訪れました。◆とき:H18年10月21日(土):清風亭【県指定文化財】、誠之堂【国指定重文】、深谷商業高校記念館【登録有形文化財】など



2005年度「近・現代建築探検ツアー」のひとコマ西町インターナショナルスクールにて

#### ⑤ 美術教育を支えるための「先生のための研修会」について

##### (1) 企画展ガイド・ツアー(教員向け鑑賞会)

学校の先生を対象として、企画展を楽しむためのガイド・ツアーを実施しています。学校で役立つ展覧会情報、企画展の楽しい見方、美術館の利用方法などについてのレクチャーを交えながら実施します。◆9/8(金)「マンダラ展ーチベット・ネパールの仏たち」◆12/9(土)「美術館は白亜紀の夢を見る」

##### (2) 教員美術講座

##### ○平成17年度第1回教員美術講座「子どもたちが輝くこれからの美術教育」

◆とき:平成17年7月1日(金)◆内容:映画「トントンゴゴゴ図工の時間」の上映、シンポジウム「子どもたちが輝くこれからの美術教育」

##### ○平成17年度第2回教員美術講座「先生のためのワークショップー身近な素材が素敵なアートに！」

◆とき:平成18年3月3日(金)◆講師:瀬畑亮氏(セロハンテープ・アート作家)◆内容:ワークショップ「セロハンテープ」



教員美術講座「先生のためのワークショップ」:参加者全員によるインスタレーション

プでイメージづくり～自己の解放」「モノからアートへ～インスタレーション」、ギャラリートーク「ベン・シャーン展」解説

### ○平成 18 年度第 1 回教員美術講座「アートの可能性！自分発見のための表現アート」

◆とき：平成 18 年 7 月 26 日(水)◆内容：ワークショップ「グループマンダラ」「モデリングによる立体表現」や講演会「表現アートについて」◆講師：相澤るつ子氏【PCETI(人間中心主義表現アート)ファシリテーター、絵本作家、挿絵画家】

## ⑥ 作品鑑賞を助けるワークシートについて

当館では、子ども向けの作品鑑賞を補助するためのワークシートを作成しています。作品を紹介したワークシートは現在 6 種類あります。

◆(1)ピカソ「静物」、(2)モネ「ジヴェルニーの積みわら、夕日」、(3)日本画の表現—小茂田青樹「春の夜」、土田麦僊「甜瓜図」、菱田春草「湖上釣舟」、(4)モホリ=ナジ「フォトグラム」、(5)マルク・シャガール「二つの花束」、(6)ジャコモ・マンズー「枢機卿」

また、美術館の楽しみ方を伝えるガイドブック「ジュニア・ガイド」や、開催される企画展ごとに作成するワークシート、館内に展示してある椅子をめぐる「アートツーリング」も作成しています。



ワークシート

### 【今後の企画展の紹介】

#### 企画展「没後 30 年 熊谷守一展—天与の色彩 究極のかたち—」

日時：2008 年 2 月 2 日(土)～3 月 23 日(日) 10:00～17:30

内容：「超俗の人」「画壇の仙人」と呼ばれ、子供や木の実、小さな虫たち、花や猫などの身近で何気ない題材を愛情あふれる眼で見つめ、単純な線と色彩で描き出した熊谷守一の作品の数々を紹介します。

費用：観覧料 800 円(高校・大学生 640 円)

問合せ：同館(T048・824・0111)へ

作品キャプション：熊谷守一《櫻》1968 年／天童市美術館寄託



#### 企画展「いとも美しき西洋版画の世界」

日時：2008 年 4 月 5 日(土)～5 月 18 日(日) 10:00～17:30

内容：15 世紀ルネサンスに始まるヨーロッパ版画の歴史を、20 世紀までの各時代の代表作家、ドイツのデューラー、フランドルのブリューゲル、オランダのレンブラントなどの作品でたどる版画展。

費用：観覧料 900 円(大学・高校生 720 円)

作品キャプション：ピーテル・ブリューゲル(原画)《大食(『7つの大罪』より)》1558 年／個人蔵

